

# 平野区の 都市景観資源紹介



# 平野区の都市景観資源

大阪市では、平野区の都市景観資源の発掘のため、「わがまち自慢の景観」を募集し、大阪市都市景観委員会の審議を経て、平成24年12月21日に12件、平成25年3月8日に1件、平成26年3月20日に1件を都市景観資源に登録しました。

## 1. 奥田邸とその裏の道



◆所在地  
平野区加美鞍作1丁目8番5号

◆概要  
代々鞍作の庄屋をつとめた奥田家の邸宅。現在の屋敷の建築年代は明らかではないが、手法から江戸時代初期の豪農の家と考えられる。市内に残る数少ない民家である。敷地をはじめ主屋・座敷・長屋門・納屋などが国の重要文化財に指定されている。

## 2. 旧屋敷小路（喜連環濠地区内）



◆所在地  
平野区喜連4丁目4番付近

◆概要  
喜連環濠地区の旧中高野街道沿いには、江戸期から明治期にかけて建てられた旧家の建物など、歴史的まちなみが残されている。古代の村が中世の環濠集落、近世の惣村へと発展していったことを裏付ける遺跡群が再発見され、その歴史が明らかになりつつある。

## 3. 式内楯原神社



◆所在地  
平野区喜連6丁目1番38号

◆概要  
式内楯原神社は平野区喜連の旧集落のほぼ中央に位置する式内社である。本殿は大型の一間社流造で、正面向拜の足元には浜床を据え、向拜上には千鳥破風と唐破風を付ける。屋根は現在は銅板葺であるが、もとは檜皮葺であった。底部分の虹梁型頭貫、海老虹梁、蟻股などの形態やこれらに施された彫刻は17世紀初頭の特徴をよく示しており、建立年代をこの時期と考えることができる。細部意匠は古式であり、彫刻類を多用しない身舎部分の簡素な構造は、市内に数少ない江戸時代初期の特徴をよく示すものとして貴重である。

## 4. 如願寺



◆所在地  
平野区喜連6丁目1番38号

◆概要  
崇峻天皇元年(588年)、聖徳太子により「喜連寺」として創建され、後に弘法大師により再建され、弘仁8年(817年)「如願寺」と改号。木造彩色聖観音立像は平安期作の府指定文化財に指定されているほか、奈良時代の乾漆像である弁財天、平安期の木造地藏尊などがある。境内には「灌漑長閑紀功之碑」がひっそりと建つ。

## 5. 八坂神社と棕の木



### ◆所在地

平野区喜連東 2 丁目 1 番 14 号

### ◆概要

東喜連村の氏神で素盞鳴尊を祀り、八坂神社と称していたが、嘉永年間に忍坂大中姫命（允恭天皇の皇后）を祀る媛天神を合祀して東西神社となった。改称は、合祀により氏子が東西喜連村にまたがることになったので、東西の二字をとった。明治 42 年、天神・東西・春日の三社は現在の楯原神社に合祀されていたが、氏子の決議にもとぎ再び八坂神社とした。昭和 26 年、東喜連氏子の要望により、東西社・春日社を元の東喜連に分離移転し、同時に地域の氏子も別れることとなった。境内には「棕の木」があり、根元の幹周りは約 4m 余りもある大木である。

## 7. 喜連環濠地区の 6 つの地蔵尊（北口、尻矢口、西口、馬倉、東口、南口）



北口地蔵尊



尻矢口地蔵尊



### ◆所在地

平野区喜連 3 丁目 7 番、4 丁目 5,7 番、6 丁目 1,5 番

### ◆概要

古くから喜連環濠集落の 6 か所の出入口には地蔵尊が祀られている。中高野街道の環濠南入口の大手前を意味する「馬倉地蔵尊」から反時計まわりに、「安政」の石碑が傍らに残っている立派な体格の「東口地蔵尊」、



西口地蔵尊



馬倉地蔵尊

地蔵盆には「寛政」の膳が供えられる「尻矢口地蔵尊」（背後の防備を固めたと思われる名称である）、中高野街道の北の玄関口として立派な地蔵堂を備え、環濠を跨いでいた松山橋跡も残る「北口地蔵尊」、本尊の左に謂われ有りげな首地蔵が祀られている「西口地蔵尊」、中世からの歴史を感じさせる線刻の地蔵が脇に控える「南口地蔵尊」である。

6 つの地蔵尊の位置と名称から中世の喜連城の惣構が浮かび上がる。また、地蔵尊は戦乱の時代に一揆も戦った村の関所跡でもある。戦が止んでは集落の出入口で田畑に通う人々を見守り、喜連環濠集落を守護する存在として、人々の生活に溶け込んできた。次第にこどもたちを守る仏様に転じ、夏の風物詩「地蔵盆」（毎年 8 月 23、24 日）の舞台となって、今もこどもたちに親しまれている。

地蔵尊は隣近所の人々の温かい善意の気持ちによって何百年と護り続けられている。



東口地蔵尊



南口地蔵尊

（平成 25 年 3 月 8 日 追加登録）